

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 芸術・体育教育学系 准教授

氏 名 長谷川 正規

研究期間 平成28年度

研究費 227,000 円

研究プロジェクトの名称	管打合奏における基礎トレーニング教材の分析と使用法
研究プロジェクトの概要	現在日本の学校で盛んに行われている管打楽器による合奏について、ハーモニーやリズムを整えるなど基礎的能力を育成することは、効率よく合奏の芸術性を高めるばかりでなく、演奏者がより音楽に親しむためにも非常に重要である。そこで、管打合奏における基礎トレーニング教材と使用法について研究を行った。 複数の教材を取り上げてその要素および意図を抽出し、管打合奏の基礎トレーニングにおいて必要とされるものについて分析した。また、講師を招聘して大学・高校生合同の合奏をモデルとした「吹奏楽における基礎合奏講座」を開催し、その使用法についての検証も行った。
成 果 の 概 要	どの教材にも共通するのは、①ユニゾン、②スケール、（音域により分けた各声部の）③バランス、④ハーモニー、⑤リズム（タンギング）の要素であった。これに加えてソルフェージュやコラール、楽器に応じた奏法のチェックなどを取り入れるなどして教材の特徴が表れていたが、まず上記の5つの要素を必ず含むべきものと考えられる。スケールをユニゾンで演奏する、ハーモニーにリズムを付加するといったように、それぞれの要素が同時に扱われることはしばしば行われる。実際に楽曲を演奏する際は基礎的な事項の上に音楽表現が成立するため、これらの要素を同時的に処理できなければならないが、特に初期のトレーニングの段階ではこれらの目的を単純化して示すほうが、練習の効率化につながると考えた。また教材の使用については、声を出して歌ってみることの重要性について言及するものが多くみられた。さらに公開講座で得られた示唆も加えて、次の結論に至った。 管打合奏の基礎トレーニングは、その要素自体は単純で音楽の基礎といえるものであるが、純粋に「合わせる」という行為を徹底的に追及する必要がある。また、その必要性を合奏者それぞれが強く認識することが重要であるといえる。こうした基礎トレーニングは「統制」にみえるかもしれないが、演奏者の個を失わせるものではない。むしろ徹底的に合わせるからこそ、個性の部分が際立つ演奏に繋がっていくといえる。
研究成果の発表状況	本研究の成果は、平成29年から公開講座「合奏の基礎 ―その目的と効率的な方法―」を実施し、教育現場を主な対象として還元していく予定である。また、平成29年6月4日と9月23日に上越地区吹奏楽連盟主催の合奏に関する講座を開催する。その後も積極的に成果を発信していきたい。